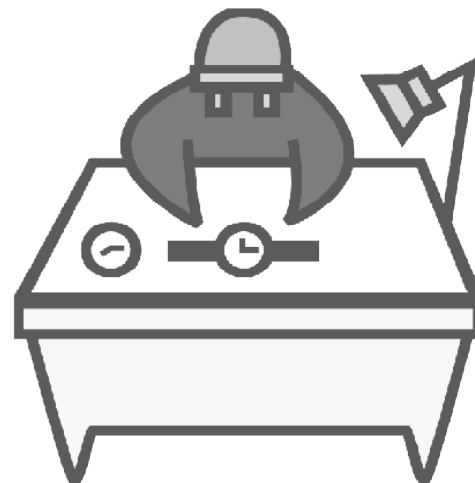


第19回共に働くまちを拓くべんきょう会 身近かで始める就労支援

9月5日(木)6時半～ 越谷市中央市民会館5F

このべんきょう会は、障害者が地域で働くというテーマをきっかけにしながら、障害のない人の働きかたや暮らし方を含めて、フリーに語り合おうという会です。一回、一回、レポーターをお願いし、それを口火としておしゃべりしますので、初めての方でもどうぞおいで下さい。

今回は松伏町在住の影山さん母娘がご自分の身の回りで始めた小さな「就労・生活支援」の試みをお話しいたします。(その他、時間があればメンバーが視察してきた福祉施設と生協が連携して拓いた援助就労の事業所についての報告も受けます。)



会費・200円

主催・障害者の職場参加を
考える会 048-733-2743

(松伏町在住)

話し手・影山陽子・紀子さん

身近かで始める就労支援

話し手・影山陽子・紀子さん (松伏町在住)

昨年の職業開拓推進事業で役所や民間事業所を回り、面接や職場実習のOKをやっと取り付けてきて、作業所等にいる障害者本人、家族、職員がいずれもその気にならないという現実を、いやというほど実感した。だめになったとき行き場がなくなるといふ不安ははかりしれない。

その不安は、障害者や家族が周りの人々と共に生きてきた体験とそこで築いた人脈や生活のノウハウの価値をきちんと受け止められないところから来る。明日の作業所等は単なる行き場としてでなく、個人の地域生活からにじみ出るパワーを生かしてゆく支援拠点になってゆくべきだろう。その営みはたとえば、こんな風に始まっているのかもしれない。



陽子さん(写真)はてんかん発作のため中学までは特殊学級に在籍。卒業後、もう分けられたくないと専門学校へ。充実した3年間が終わり、今春卒業を迎え、就職が見つからない中で、近所の高齢者デイサービスのボランティアを経て、母紀子さんが以前から働いていた近所の工場でパートで働くようになる。

第19回共に働くまちを拓くベンキョウ会

9月5日(木) 6時半～ 越谷市中央市民会館5階

資料代・200円 障害者の職場参加を考える会 048-733-2743